

金子みすゞの
こころをつたう
大西進 作曲

清水正美コンサート

みんなちがって みんないい

金子みすゞの
わかりやすく
情感あふれる言葉を
美しいメロディに
のせて歌う
清水正美のステージ

プログラムは
金子みすゞの5-12作品の中から、
集いのねらいや対象年齢、季節などに
あわせて構成します。
皆さんのご要望の曲にもお応えできます。

公演時間 50〜80分

曲目例

私と小鳥と鈴と 積った雪
大漁 粉雪
どんぐり ころこ
明るいう方へ 星とたんぼほ
みんなを好きに このみち
学校へ行くみち さよなら

編成

ご予算に合わせて編成可能です。

- A 基本編成…5人
清水正美/ピアノ/ヴァイオリン/指揮/製作
- B ホール公演など…7人
清水正美/ピアノ/ヴァイオリン/指揮/照明/製作
- C 小規模公演…4人
清水正美/ピアノ/指揮/製作



明るいう方へ

明るいう方へ

明るいう方へ

一つの葉でも

陽の洩るるところへ

戴かげの草は

明るいう方へ

明るいう方へ

翅は焦げよと

灯のあるところへ

夜飛ぶ蟲は

明るいう方へ

明るい方へ

一分もひろく

日の射すところへ

都會に住む子等は



- 子どもたちも参加できます。
私と小鳥と鈴と
簡単な手話も覚えてもらって、「熊」
と一緒に手話をついながら歌います。
大漁 明るいう方へ など
詩の朗読を子どもたちにお話します。
こちらも取り組んでいます。
- ピアノやヴァイオリンなどの
演奏を入れることができます。
ピアノ/ストヴァイオリンは第一線で活躍中の
演奏者と組んでいます。
- 子どもたちの情操を育てる、
音楽や国語の授業とリンクさせての
鑑賞教室に是非ご検討ください。
豊田公立立花小学校では、「美しい日本語空間の
行事の一つとして公演をさせていただきました。

金子みすゞの詩以外の曲も
ご要望に応じてプログラムに
組むことが可能です。

子どもたちにもおなじみの曲から 曲目例

アトアトのつた (ミニオンカガヤウシキョウジツクウ下)
手のひらを太陽に (やなせたかし詞/いずみたく曲)
ロビーロビー (杉本雄一詞/曲)
君をのせて (アノメ)空の城(ユキタマリ)
世界にひらけた花 (植木等詞/曲)
干の風になつて (藤井美詞/曲)
—— 題字年向け ——
コンドルは飛んでいく (フォルクロレより)
夜明けまで踊りたい (ユリカガヤウシキョウジツクウ下)
旅立ちの日に (小島登詞/坂本浩美曲)
手紙 (アノメ)ユキタマリ詞/曲)
夢路(大) (フオスター)
歌の裏に (メンデルスゾーン)

みすゞ全詩の 作曲にとりくんで

作曲家 大西 進

金子みすゞの全詩に作曲するということは、まず
最初に思うことは「二人の詩人が生涯かけて創作し
たその「執筆」をたどること」です。童謡を書こう
と決めた日からみすゞさんは、休養を自らたどるよ
うに、またもう一人の心の中のみすゞに問いかける
ように書き進んだのです。二つ目はいっぱい思いう
かぶることの中から何を書こうかと考える時、直接目
にみられる「出会う」人や「雀や、魚や、雲や、空
やそのすべての」在(あるもの)「いのちあるもの」
「」になりきって、そこから見つけた思いを閉れる
だけ閉り、短い言葉で書いたのです。そして最後の
二行いや最後の一行、さらにはそれさえもはぶい
て、結論をひいて宇田へなげなすかのように書いたの
です。三つ目は人生をまざまま生き方を遊ぶチャン
ス分れ道の点に立つたとき「これから降る雪はどれ
がお好き」と(雪に)問いかけ決断をうながすので
す。その三つ目の視点は作曲する上で共通するので
す。この詩は読まれるためのものなのに、どんな作
曲が一番この詩に合うのかと何通りものメロディ、
リズムの中から作曲者として「これだ」というもの
をさぐりあげて五線に写します。童謡でありながら多
くの大人の心をとらえるのみすゞの詩、だからこ
そ、三世代でまた家族で口ずさめるものにしたいた
作曲します。

いくつかの学校で私の「みすゞ」がうたわれると
き、また高齢者の方々が好んで歌われるとき、その
うたごえを聞いて、私自身の人生に大きなはげみと
なるなにかが燃え上がるのは、人としての「基礎」
が共通だという思いです。
「そこ」に出があるから登る」というように、5-12
をつくりきる歌だけのことでなく、今を生きる人間と
して、共に考え生きていきたい希いなのです。

Kaneko Misuzu

金子みすゞ
プロフィール



金子みすゞ(かねこみすゞ)本名金子テル 明治36
年(1903年)山口県大津郡世田村(今の岩門市)に生まれ
る。大正末期から昭和の初期にすぐれた作品を発表し、
西條八十に若き童謡詩人の巨匠と称賛されながら昭和
5(1930年)26歳の若さで世を去った。
没後その作品は散逸し、幻の童謡詩人と語りつがれる
ばかりだったが、童謡詩人矢野龍渓の長年の努力によ
り童謡512編を納めた選集が現つたり、金子みすゞ
全集「JULIA」出版版として出版された。そのやさし
さに興かれた詩句の数々は、今彼女に人々の心に広がり始
めている。

1903 4月11日、山口県大津郡世田村(現岩門市)にて父
前田源三、母ミヅノの長女として生まれる。本名金子
1905 2月23日、誕生届生まれる。
1906 父法圓堂口にて死去。金子家は信濃にて書屋を営む。
1907 正妻 上山文英生店主、上山松蔵と母子続柄。
1916 13才、私立大津高等女子学校入学。
1919 校長 松尾三三郎(このとき結婚)。
1923 母ミチ、上山松蔵と再婚。
20才 テルは下関市の母のもとに移り、義父 上山松
蔵(上山文英生)と再婚を始める。
ペンネーム「みすゞ」で童謡詩を書き、雑誌に投稿を
始める。以降1928年までに50編を発表する。
童謡詩人会(西條八十、北原白秋と謝野晶子、野口雨
情)の発足。
1928 23才 2月、結婚。
みすゞ、童謡詩人会に入会。11月、長女ふさも誕生。
26才 2月27日、離婚。
3月10日、上山文英堂内にて死去。

金子みすゞのころにメロディを

制作にあたって

金子みすゞの代表作「私と小鳥と鈴と」では「みんなちがって、みんないい」とうたわれた子どもたちの中には、何かはともしいろんな個性があつて、そういつた子どもたちのことは、何かはともしいろんな個性を与えてくれます。「みんなちがって、みんないい」は、みんなちがって、みんないいからこそ、みんないいと積極的に読みかえることもできます。

また「大漁」では「浜は祭りようだけど、海のなかでは何万の鯛のとむらい。するだらう」とうたわれています。人間は鯛がたくさん捕れたと喜んでいますが、それと対極的に仲間が大勢死んだと悲しんでいる鯛たちがいます。人間には喜びであることが、鯛にとっては悲しみであるということなのです。このように一つのことは立場が違えばまったく別のものになってしまうのです。また「雀の母さん」という詩でも、弱い立場、無力な立場、一言で言えば「弱者の立場」にたつて詩を書いています。

それに加えて、たとえば「明るい方へ」などのように、向上心、たくましさ、未来志向というような積極的な詩も、みすゞの詩の大きな魅力と評されていよう。

作曲家大西進は「三世代でうたえる歌を創りたい」とこれは大人の歌、これは子どもの歌というのではなく、良い歌は世代を超えて良い「二度聞いたら誰でもうたえる歌を作りたい」といつて、みすゞの全詩に作曲をしてみた金子みすゞの詩を読むだけではなく、メロディーがついて歌として聞いた時、また声を出して一緒に歌ったとき、より詩が直接私たちの情緒に働きかけてきます。このコンサートを聞いた小学生が「みすゞさんの詩がストーンと胸におちた」と感想を述べてくれました。

このコンサートは金子みすゞさんの詩は、わかりやすい、こんなボクでも喜びや悲しみが伝わってくる『まるで自分のことを詩にしたようだな』と、世代を超えて多くの人の共感を得ています。

私も「言葉」「詩」や「音楽」のもっている力を信じ、歌をうたっています。また、美しい日本語をみなさんと味わいたいと思っています。大勢の皆さんにこのコンサートを聞いていただきたいと思っています。

清水正美



Shimizu Masami
清水正美 ●プロフィール



「歌は根柢をともしび」でうたうこと20数年。声楽二期会の大倉田紀枝氏に師事する。10数年、日本の歌、世界の歌、オペラ、リアからシャンソン、ポピュラーなど、その幅広いレパートリーと歌唱力のある歌壇は定評がある。現在、ともにしび新宿店でのステージの他に、小中学校音楽鑑賞教室や教育委員会主催の音楽会など幅広く出演活動を行っている。

2001年11月から、金子みすゞ作品集「大西進作曲連弾コンサート」に取り組んでいる。同コンサートは金子みすゞの全詩512編をすべて作曲しようという大西進の企画によるもので、2004年12月11日に完結（浜離宮朝日ホール）。

2002年5月「金子みすゞ選集CD」、2004年4月「金子みすゞ選集第2集」CDを出版。

私と小鳥と鈴と



私が両手をひろげても、

お空はちつとも飛べないが、

飛べる小鳥は私のやうに、

地面を速くは走れない。

私からだをゆすつても、

きれいな音は出ないけど、

あの鳴る鈴は私のやうに

たくさんな唄は知らないよ。



鈴と、小鳥と、それから私、

みんなちがって、みんないい。

金子みすゞの
ころをうたう

大西進 作曲

清水正美コンサート

みんなちがって
みんないい



大漁

朝焼小焼だ

大漁だ

大羽織の

大漁だ。

濱は祭りのやうだけれど、海のなかでは何萬の鯛のとむらいをするだらう。



ともしび音楽企画

ともしびは、1955年東京新宿の歌声喫茶「灯」で音楽活動を始めました。

1962年に生のオペレッタを専門とする劇団を結成し、1980年にコンサート、イベント、音楽出版を中心とするともしび音楽企画が発足し、子どもから大人までの幅広い音楽の創造と普及に努めてきました。

「夢と生きがいを感じられ、かつ楽しい」そんな音楽創造・制作活動を目指しています。また、地域と暮らしに根ざしたイベントなどにも地域文化の掘り起こしとあわせて、ただ単に音楽をお届けするだけでなく「あなたが主人公」の立場で、子どもからファミリー向けの企画・構成・演出の分野にも、多くの歌手やスタッフの協力のもとで行っています。

作品のご案内

●小川邦美子

「啄木の魅力をうたう」石川啄木の作品を中心に、小学生から楽しめる作品です。小学校の体育館をはじめホールでも上演できます。伴奏は、ピアノ一本から、全面に合わせて編成します。

●へいらっしゅい! 笑時間

古今事考の落語、マギー隆司のマジックを中心に、ご希望に合わせて編成します。全年齢対象。

●マギー隆司のマジック笑

マギー隆司の一番弟子、マギー隆司が子どもの目線にたち、幼児から楽しめる50分のおもしろマジックショーです。全年齢対象。

●ともしびパネルシアターコンサート

幼児低学年対象。パネルシアターを使っての企画です。音楽に合わせて、丸と三角と四角の形を使っての造形遊びなど、子どもたちが積極的にステージに乗り出します。小学校体育館などで上演します。

●なめちゃん

あったかいいわいライブ 幼児、幼児、低学年対象。会場の子どもの年齢に合わせて、その都度プログラムを構成していきます。子供の目線に立った、暖かくて、ホットなライブステージです。幼稚園保育園ホールで上演します。

●出前歌声喫茶

新宿のともしびが全国各地に出前します。司会(歌手)、伴奏者2人から可能。規模に合わせて出演者を増やし、ステージを豊かにします。

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-15-6 新宿光臨ビル2F
電話03-3352-0246 FAX03-3352-0287 HP@http://www.tomoshibi.co.jp/ Email@info@tomoshibi.co.jp